

2002. 04. 27

●IBC 開所式●AKMM 関東世話人会発足



こんにちは、工藤篤子です。

大阪は日中汗ばむほど暖かい日が多くなってきました。皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

## ●IBC 開所式と梅津さんのこと

4月13日、自分の教会のようにお世話になっているIBC(インターナショナル・バイブル・チャーチ、黒田禎一郎牧師)の開所式がありました。私はこの日、LALO(バイオリンの西村さんとピアノの岩崎さんのデュオ)と共に賛美をさせていただきました。大阪は北浜のビジネス街の中心、しかも地下鉄北浜駅の2号出口を出ると目の前にあるVIP関西センタービルの9階がIBCの新会堂です。

私は1年半前、黒田先生の「ミッション・宣教の声」に窓口となっていただき、「工藤篤子音楽ミニストリーズ」を発足させることができました。その時、黒田ご夫妻が、「ビジネスマン伝道のためにいつかこの北浜に、もっと大きな会堂が与えられるようにお祈りください。」とおっしゃっていました。

それから一年たった昨年の11月、関西VIPの梅津さんがこのビルの購入へと導かれました。

この梅津さんについては、自分でいろいろな種類のトラクトを作成し、電車に乗っても飛行機に乗っても、この人に伝道させてください、と祈り、その都度隣に座った人に(神様が道を開いてくださって)熱心に伝道している会計公認士であるということを知りました。伝道に燃えた熱血漢を想像していた私は、小柄で優しい、人なつこいお顔に驚きました。でもすぐに、ああ、このような方だったら、話しかけられれば誰でも心開くにちがいない、と思いました。

昨年暮れにお会いした時には、「こんなたいそうなこと、何度も無理や、と思ったんやけど、その度に神様がみことばを通して、わたしがするから大丈夫、と言わはるんです。そして借金しかない私にどうして銀行がお金を融資してくれたのか未だに分からへんです。そやけど、神様のそばは、人間のもんとは、ちゃうんですねえ。」4月13日の開所式では、相変わらず、「未だにどうしてこんなことになったのか分からない。」と言い、「魂の救いのために、このVIP関西センターが用いられて欲しい」と心から語られた梅津さん。

その日、メッセンジャーとして招かれた中川健一先生の、「今、歴史は動いた」というおことば。

梅津さんのようなへりくだったキリスト者の従順によって、また、VIP関西の皆さんの熱い祈りと賛同によって、「今、歴史は動き始めた」と確かにに思いました。神の栄光だけを求め、主に従う信仰の先輩たちの姿をお手本にして、私も主に従ってゆきたい、魂の救いのために主に仕えてゆこう、と励まされました。

## ●ミニストリース関東世話人会の発足

4月20日、東京の世話人会が正式に発足しました。

92年の二度目の日本帰国以来、すべての面で私を支えてくださった花井ご夫妻、ハンブルグの日本人教会でお出会いした武田姉妹と河浦姉妹、やはりドイツ生活の長かった松田ご夫妻、そして昨年、イスラエルでお出会いした田中兄弟、合わせて7名の皆さんです。皆、ミニストリースの目的、働きに賛同してくださり、お手伝いしたい、一緒にやりましょう、とおっしゃってくださいました。

素晴らしい同労者が与えられましたことを、主に心から感謝しています。そして、先ず今年初めての関東での支援者の集いを持つために、この7名の世話人の皆さんが企画をしてくださいます。日程は10月18日（金）です。場所や時間は未定ですが、関東地区の支援者の皆さん、知人友人をお誘い合わせのうえ是非お集まりください。

## ●余談



4月20日、この世話人の顔合わせのために大阪から東京へ、関西の世話人の中川姉と行きました。新幹線で東京駅に着いた後、中央線で四谷へ行くとき、私たちは中野で乗り過ごしてしまったことに気が付きました。その後、向かいの電車に乗ったら、何とそれは地下鉄の東西線、なんでJRと地下鉄の乗り場が同じ場所にあるの！？と憤慨しながらも飯田橋でJRに再び乗り換えました。そこで事件発生。なんと私はその電車の中に、その日の会のための書類と、楽譜とコンサートのプログラムが入った手提げ袋を置き忘れてしまったのです。

中川さんと私の足の間に置いたはずの手提げ袋を、私は持って出なかった、いやいくらなんでも二人の足の間に置いたものに気が付かないはずがない、電車が混んでいたから、知らない間に誰かが持っていたのではないか、と言うのが中川さん。実状は分かりません。二人とも時間がぎりぎりになってしまってあせっていた時のできごとでした。とにかく電車を降りて、気が付いたら私は手提げ袋を持っていなかったのです。

いずれにしても私は忘れ物の大天才でもあるのです。顔合わせ会の会場に着いてから、すぐに事情を関東世話人の皆さんに話しました。田中さんがすぐさま駅の忘れ物センターに電話を入れてくれました。書類は中川姉が一部持っていたので、その場でコピーしていただくことができました。

楽譜は、ちょうど今レコーディングをしている曲だったので焦りました。ピアニストたちが同じ楽譜をもっているのに、コピーさせてもらえばいいのですが、それぞれの楽譜に書いていた貴重な覚え書き（例えば歌詞の意味、発音記号、聖句等々・・・）のことを考えると心が焦りました。関東世話人の皆さんが祈ってくれました。

帰りの電車で落ち着いてもう一度祈りました。そうしたらこれは拾ってくれた、あるいは置き引きした人が、賛美の曲とコンサートのプログラムに書かれた賛美歌詞と私の信仰の証しをその人のために主が用いてくださるように、との思いに導かれました。ひとりの人がもしそれで救いに導かれるなら、主は私のドジさも良くご存じで、用いてくださったのかもしれない、などと思ううちに、楽譜の覚え書きはなくても主が導いてくださる、と考えると、心がとても平安になりました。

そして楽譜のことはすっかり諦めていた昨日、三鷹警察署から電話が入りました。関東世話人の皆さん、ほんとうにご心配おかけしました。そしてお祈りありがとうございました！荷物が出てきました！

## CDのレコーディング

昨年のCD録音の失敗から、レコーディングに関してけっこう難航状態が続いています。まず、4月にお願いしていたレコーディングスタジオの改装工事が遅れてしまい、スタジオでの録音は週末以外は無理になったので、途中で、半分は別のディレクターをお願いしようと思ったら、マスターを作る際、二人のディレクターの録音システムが違っては無理なこと、時間の調整も難しかったこと、それで文化ホールのリハーサル室を借りたら一日目はピアノの椅子のきしみがひどくて雑音が入ってしまったこと、二日目、録り直したけれど、時間が足りなかったこと等々・・・そんな中でも、私自体は困難な中でも、このCD作成には結構平安があります。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、私のところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」（マタイ 11 章 28、29 節）

今度のCDのテーマです。

目的としている伝道のために、主はこのような困難も、このみことばに戻るたびに、何かに用いようとなさっているのではないだろうか、と思うのです。録音が困難なために、半分は工事の雑音のあるところでも直接器械から録音できるシンセサイザーの打ち込みを用いることにも導かれましたし、それをアレンジしてくれた岩崎さんは大したものです。それでもディレクターの梅本さんはもっとシビアです。私にはかっこよく聞こえても、「この音はあかん。」「ここのリズムがゆるかった。」「そこの和音はきたない。」「そこは上からのアルペジオの方がええで。」云々・・・。彼はほんとうにいいCDを作りたいと思ってくださっています。これだけこだわってくれる人ではなかったと思っています。そして先にも書きましたように、彼の救いのために祈ってください。

録音は27日、28日と続きます。うまく歌えることの前に、ここからの賛美を録音したい、と祈りつつ、みことばに支えられて録音に臨んでいます。。もしこの二日で全部歌の録音ができれば、私は4月30日にドイツに戻り、CDジャケットの作成を始めます。そうすれば、夏頃には新しいCDを発売できるのではないかと思います。どうぞお祈りください。

工藤篤子